

# かたらし

61号

2025

春

## 多様性・自分らしく輝く

p2 **特集**

「強くても弱くてもいい 多様な人でつながる社会」

枝元 なほみ さん



p4 **小金井で働く**

「変化するまちに見る 商店の多様な取り組み」

けやきのまち振興会 会長 益田 智史 さん



p6 **国際比較**

「アメリカ人留学生の眼から見える

フェミニズム運動の日米の違い」

グランゾウ・カイル・ルイ さん



p8 令和6年度 男女共同参画シンポジウム 報告

第38回 こがねいパレット

「みんなとちがってもいいじゃない」 報告

p10 男女平等に関する市民意識調査 結果速報

第6次男女共同参画行動計画推進状況調査報告

裏面 令和6年度 性の多様性への理解促進講座 報告

## 特集

# 強くても弱くてもいい 多様な人でつながる社会

### ▼子ども時代／青春時代を振り返って

昭和30年横浜に生まれ、父はサラリーマン、母は小学校教員の典型的な昭和の子どもでした。父親が単身赴任することもあり、母が帰宅するまで祖父母と叔母が暮らす家で過ごしていました。授業中にズボンのベルトとか出してぐるぐる巻いてずっと遊んでいた、宇宙の果てはどこにあるんだろうとか思っているような子どもで、家族内では「変わり者」と言われていました。読書が好きで子どもで、アメリカ文学に興味を持ち、明治大学のアメリカ文学科へ進学することになりました。

大学時代には、仲良くなった子が舞台美術の仕事をしたことがきっかけで、いろいろな演劇に誘われるようになって芝居の道へ。大学卒業後も、中野にあった無国籍レストランでアルバイトをしながら芝居を続けるという貧しいながらも自由な生活をしていました。

26歳の時に大杉漣さんも所属していた「転形劇場」に研究生で入り、32歳で劇団が解散するまで役者をしていました。普通、26歳になったらみんな就職とかで劇団員は辞めるじゃないですか。でも私はね、どっちに、こういうふうによつていこうと思わないタイプなんです。理想を持たないっていうか。みんな理想と現実のギャップで挫折しちゃうんですけれど、私は理想がないというか、なんか

ちよつとやってみると、できないと思うけど、でもちよつとできると、できた！って思う。自分がもう一段ステージが上がるような感じがして、さらにその段階でまだできないことが見えてきて、どんどん挑戦し、できるようになってくる。そうやって繰り返し返しているうちに、いつ辞めていいのかわからなくなっちゃう。だから今でも自分がこれをやりたいとか、こうなりたいとかっていうのがあんまりないんです。それを決めちゃうと苦しいなあと思って。

### ▼ビッグイシューとの出会い

レストランで働いていた友だちが週刊誌のライターをすることになり、料理の連載に誘われ、料理研究の道に進みました。料理研究を仕事にし始めてから2年位した頃、ある時テレビ局から仕事を頼まれて、あまりにも人の仕事をきちんと仕事として捉えていないということにすごく腹立たしく思う出来事がありました。そんな時に、ビッグイシューからインタビューを受けることに。ビッグイシューは生活に困窮した人とかに仕事を作るプロジェクトなんですけれど、ビッグイシューがしていることは仲卸みたいなもので、雑誌を売る人たちは個人商店から始めるかは自分で決めていいと前の代表が言ったんです。そういうフラット

料理研究家としてこれまでテレビへの出演や書籍を多数執筆するほか、NPO法人ビッグイシュー基金共同代表も務め、「夜のパン屋さん」を立ち上げるなど、多方面で活躍されている枝元なほみさんに、本号のメインテーマに沿って「多様性」「人との繋がり」「新しい仕事の在り方」について伺いました。

な関係性に感動し、その仕組みがいいなと思ったので、「なにかさせてください」とって声をかけて関わることになりました。それから何年か経って、女性がい方がいいうことで共同代表になりました。

▼売り切れなくてロスになってしまう街のパン屋さんのパンがあります。それをお預かりし、販売することで様々な事情を抱える方の仕事場をつくる「夜のパン屋さん」。始めたきっかけは？

ビッグイシューに関わっていく中で、ビッグイシューの対象について、私がずっとイメージしてたのは男の人たちだったと、ある時気がついたんです。実際には女の人もしんどいですよね。だから女性の貧困ってところまで掘っていくことができたらいいなと思って。体力的にも雑誌を売るのは大変なので、他にも衣食住に関わるような基本的なことでも何かできることはないかと考えていたんです。

私は食の仕事をしてきたので、レストランを開くとかコーヒー屋さんとかいろいろ考えますが、それだと初期投資がかかる。それからパン屋さんだと技術的なことをずっと誰か一人が指導しないといけないくて、私は自分の仕事もあるから、そんなことまでできないしね。東京中にはいろんなパン屋さんがあるし、またそ

こに競争みたいな形で入っていかなくてもいいはずだと。そこで売れ残ってしまったものを捨てないで済むようなフードロスのことだったらできると思い、ロスとなってしまうパンを預かり、そのパンをピックアップする仕事と販売する仕事を生み出す「夜のパン屋さん」プロジェクトをしようと考えました。場所を探し、パン屋に声をかけて回るのも私一人でやって大変だったけれど、どうやったらできるか、そこからどうやってその場所に根付かせるか、一人一人を繋いでいって一緒にしていくか、みたいなことを考えてきました。夜のパン屋さんの仕組み



は職人を育てなくていいし、みんながすぐその日からできるし、フードロスもなくてすむ。そんなニッチなことを見つけました。

### ▼新しいプロジェクト「シェアフード」

私の考えのベースとして、大量生産で、大量消費大量廃棄っていうところから、もう抜けたくて抜けたくて。ちょっと



残ったのを上手にシェアしていく。そうすると、そのことで、人同士が話せたりね。全然温かみも違ってくる。そんなことをもう一回考えたいなと思い、シェアフードプロジェクトを立ち上げました。

夜のパン屋さんでは、パンを売るのでギャラが発生するのですが、新しいシェアフードプロジェクトに関しては、どうやってお金を生み出したらいいのか考えているところです。スーパーに卸すみたい、3ヶ月前になったら引き上げますとか、値段は幾らで卸しますとか、そういうんじゃないくて、もっと細かい事情を、みんなで聞き合ったりするんです。そうすると、何か大きいシステムも作りたいんだけど、そうじゃなくて、細かくみんなで相談しながらやっていくようなことをしていきたい。ちょっとの手伝いでそんな大量のお金がなくても、みんなで分け合えたり、人を受け入れたりする場所があれば、死なないで済むときもあるのではないかなと思っています。



### ▼病気になるって改めてわかった「多様性」の良さ

病気になるって、できないことがいっぱい増えてしまいました。そんな時に友だちから「強くても弱くてもいいじゃない」と言われて、強い人がすぐくて偉いわけではなく、強くても弱くてもいい、自分のできること、好きにできてもできなくてもいいと思うようになり、改めて多様性って良いなと気づかれました。

ビッグイシューってもともと仕事を作るっていう感じだったんだけど、仕事を作るだけじゃなく、社会参加だんて思うんです。お金を稼いだり、仕事があるとかないとかも大事ですが、食べ物を作って、食べてもらうことにも言えることですが、社会参加してると思えることが大事だなと思います。それが無いと、人ってすごい寂しいと思うんですよね。できなかつたり、頼ったりすることもあるんだけど、でもそれだけじゃなくて、繋がるのができたなら、すごくいいなと思います。だから強くても弱くても、強いことが一番いいんじゃないくて、弱いことが大事なんじゃなくて、いろいろな人がいて、ごちゃまぜになって生きていくんだらうなとすごく思うようになりました。決めつけていけない。多様性って、そういうことですよね。

例えば礼儀作法のことで、お箸を持つてから、お箸を持ちなさいとか言われたりしても、アフリカの人ならお箸の存在すら知らないわけだし、そんなこと知るか！と思うことだっていいはずなんだなって思うんです。これは正しいと決めたものを相手に渡していくんじゃないくて、どれがいいんだらうねって、一緒に

考えていかれるような社会になっていかないねと思っています。

### ▼子どもたちへ伝えたいこと

私は料理の先生とか言われていますが、料理学校に行ったことは一度もないんです。でもお金かけて学んでいなかったから良かったんだなと思っています。

学校に行くと、こうしたら失敗しないよと教わるから、失敗からはみ出るのが怖くなると思うんです。でも私はやり方知らないから、突っ込んでいって間違える。間違えと痛いから、自分で考える。自分で見つけたって思うと忘れない。

子どもたちには、自分でご飯を炊いてみて、うまいって思えたら、それが力になるはずと思うので、自分で食べるものを考えたり、作ったりしてみる人、そんなふうになってくれよ、と思いますね。



### 取材を終えて

私たちがインタビューさせていただいたのが12月12日。

そのわずか2ヶ月後に悲報が届くなんて夢にも思っていまませんでした。

一言一言を全身全霊で話される姿は今でも心に残っています。力を振り絞ってインタビューに応じてくださった枝元なほみ様に深く感謝いたしますとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

(秀澤)

# 小金井で働く

## 「変化するまちに見る 商店会の多様な取り組み」

けやきのまち振興会 会長 益田 智史さん

大型店やチェーン店の出店が進む中、個人商店のあり方も大きく変化しています。JR武蔵小金井駅の北東に位置するけやきのまち振興会の会長益田さんに、人との繋がりを大切に、地域に根差した商店の多様な取り組みをお伺いしました。

### ●けやきのまち振興会とは

1987年に設立された、小金井市けやき通り商店会は2024年11月に、けやきのまち振興会（以下「振興会」という）に名称を変更しました。この振興会は駅の北東にあたる、高架下からけやき通りを含む北大通りの範囲にある加盟事業者の集まりを指します。名称変更の理由は、以前のけやき通りにあった飲食店やサービス業などの商店は現在少なくなり、工務店、保育園・幼稚園、介護事業所、飲食店などが住宅の中にまばらに並ぶまちなったことにあります。この振興会には現在52事業者が加盟しています。

現在の振興会は、会員の男性比率が高く高齢化して、事業者が減少していることもあり、会員数を増やすことは難しい

状態となっています。その理由は、この土地で新たに商売をするにはテナントが少なく、若い人が自分の店舗を持ち、起業するには難しい状況があるからだと思っています。

### ●商売と振興会

私は市内で小さなステーキ屋を営んでいます。私の店舗のある小金井市本町二丁目は人口密度が高く、町会の活動が活発な地域であるものの、この場所で個人飲食店を営むには、大手チェーン店もある中で、安さや品揃えで勝負するのは難しい状況です。私の店の場合、沢山のステーキ屋がある中で、どうすれば私の店を選んでもらえるかについて悩みました。

その結果、この地域には高齢者も多いことから、若者が食べるイメージがあるステーキを高齢者にも食べやすい食事として提供する工夫をしています。

振興会では市民の皆様に加加盟事業者の内容を知ってもらうことと、事業者同士との接点をつくることを目的に、イベントや親睦会を開催しています。振興会は、

様々な事情を抱えた事業者の集まりであることから、運営にあたり、意見を調整する難しさがあります。そのため、会長としては、多くの人とつき合い、仲良くなり、繋がりをつくること、声かけを行うなど、会長が率先して行動し、まともなことができるように心がけています。

### ●地域の意見を取り入れる

私がけやき通り商店会に入った20年前のころ、会員はけやき通りに面した商店が主で、会員数は年々減少していました。そして私が会長になったころ、運営は古い風習が残っており、風通しが悪かったこともあり、意見がまとまりませんでした。そこで、国の平成28年度地域・まちなか商業活性化支援事業補助金を活用して、地域住民が商店会に期待する役割についてのアンケート調査を実施し、新たな活動方針を決めることにしました。

その結果、「買い物環境の充実」の次に、「居場所づくり」、「高齢者の見守りや子育ての支援」など、商売で行っていないことを望む声が多いのがわかりました。

### ●小金井での商売のあり方

商売は大きく分けて個人商店、大型店、ネット通販があります。ネット通販は在

そして結果を踏まえて活動を行い、繋がりをつくることで、少しずつ賛同を得ることができ、商売の売上も増えました。



あいたい屋広報誌



インタビューに答える 益田さん

庫を抱えて安くできますが、インターネットや配送のネットワークが必要となり、入手するのに少し時間がかかります。一方で、大型店は品揃えが豊富で買って帰ることができません。個人商店の強みは品揃えは良くないが専門性に特化できること。そして最大の強みは、お店にはいつも顔見知りの店主がいて、買物や物をきかけにおつき合いが始まり、お店との信頼関係が築かれると、お客様はお店のファンになってくれることにあります。

若い頃私は、自分ひとりだけが生活できる収入があればよいと考えていましたが、結婚して家族が増えたこともあり、経済的に成り立つために、仕事のやり方を変え、やれることは何でもやろうと思うようになりました。

そこで振興会を通して、イベントの開催だけでなく日頃の地道な活動を充実させ、地域住民との繋がりをつくり、その繋がりの中で多くのファンを増やし、お

得意様をつくる。ファンが増えることで賑わいができ、商売が繁盛すればと考えてようになりました。

その為、私のワーク・ライフ・バランスは、常に地域との繋がりを大切に考えていることから仕事寄りとなっていますが、このまちで暮らしていることの充実感や安心感があります。私はまちが活性化することで、商売も繁盛することをつねに願っています。

最近では外国人の居住者も増え、市内の外国人居住者は3000人を超えており、最近では毎年3000人を超える方々が小金井市内に転入してきているようです。店の求人を訪ねて来る外国人もいますが、個人商店では、マニュアルに沿った接客とならないため、外国人には難しい面があります。

### ●新しいネットワークの誕生

地域との繋がりで「子育ての応援」や「高齢者の見守り」をするにあたり、商業者以外との意見交換会を行なおうと考えて、2007年に始まったのが「みんなの安心・ささえ愛ネットワーク」(以下「みんな愛ネット」という)です。

参加者はデイサービス等の介護事業者、ケアマネージャー、地域包括支援センターの職員、幼稚園・保育園の先生、地元町会、小金井市観光まちおこし協会など、様々な人たちが月1回集まって、ミーティングで近況報告など雑談を通して、情報交換を行っています。そこでの繋がりを通して、人が足りない時の助け合いや、幼稚園のイベントのアイデア出しなど、お互いを助け合うようになりました。



わくわく農園感謝祭の様子

そこで出た話で、デイサービスに来ている高齢者がいきいきできる場所がないかとの話から、高齢者は野菜を育てることので元気になることがわかり、農地を所有している農業者に相談したところ、駅近くで農地の使用を承諾してくれました。

そして、みんな愛ネットで取り上げたところ、保育園が農地を使用することで、園庭を持たない保育園の、遊び場が無いという課題解決になりました。さらに、東京都が都市農地の保全をテーマにした、補助金事業で農地の募集があり、小金井市観光まちおこし協会のもと、応募し採択され、「わくわく都民農園小金井」(以下「わくわく農園」)が2022年に誕生しました。

また、東京都からの支援で、そこに管理棟を設置することで、その中のカフェで障がい者の働く場所や、こども農園など多様な世代の人たちが、農地を通して交流するための居場所となることができようになりました。年に一度開催する「わくわく農園感謝祭」でのサツマイモ収穫体験、芋汁の販売など、いろいろなイベントも賑わっており、人気も高くなっています。

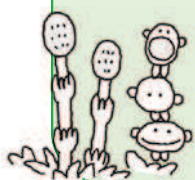
この「わくわく農園感謝祭」のイベントでの収益は、次の活動の資金にあてられることで、持続的な活動を可能にしています。私は地元密着で、愛着がもてる繋がりのある取り組みが、小金井での商売にとって大切だと考えています。その取り組みを通して、商店の売上に繋がる、この地域との共存が非常に大切だと感じています。

### 取材を終えて

商店会が設立されたおよそ40年前と比べると、小金井の町並みは大きく変わりました。高層マンションができ、大型店が出店し、その結果、個人商店の数は少なくなりました。

今回のインタビューを通して、変化するまちに居場所と繋がりを求める住民のニーズに添えて、地域に根差した新しい形の商店をみることができました。

(塚田)



# 国際比較

## アメリカ人留学生の眼から見える フェミニズム運動の日米の違い

「ジェンダー問題、男らしさ、女らしさについて」を研究テーマに上智大学に交換留学生として来日されたグランゾウさんに、故郷と日本の男女平等の違い等について伺いました。

グランゾウ・カイル・ルイさん

### ■はじめに

私は米国のカンザス市から参りました米国人グランゾウ・カイル・ルイと申します。

エンポリア州立大学の英文学部で学び、半年間、日本の上智大学に交換留学生として来日し、令和6年2月に修士課程を終えました。令和7年1月より滋賀県近江八幡市のYMCAの職員として勤務し、近隣の高等学校にて英語を教えることになりました。

毎朝5時半ごろ小金井公園を散歩しているうちに多くの小金井市民の皆さんと親しくなり、その方々のご紹介により、この度、小金井市男女共同参画室発行の情報誌「かたらい」のインタビューを受けることになりました。

### ■私の故郷

私は、カンザス州の片田舎にあるラティマーという人口わずか20人の牧畜と小麦を産業とする小さな村で生まれ育ちました。私どもの牧場では、馬2頭、牛200頭を飼育していました。家族は、両親と兄2人、弟2人の5人兄弟7人家



カンザス州ラティマーの位置

族です。夏は40度、冬は零下20度という厳しい自然環境の元で育ちました。

村に学校がなく、近くの人口2100人のヘリントンという村の小学校に通いました。学校の規模は、一クラス28人、全体で120人でした。中学校は、学校に通わず自宅で、以前学校の教師をしていた母親からの家庭教育を受けました。が、高等学校は公立学校に通いました。母親はキリスト教原理主義者であり、

人種差別、性差別、進化論の否定等の特異な教育を受けました。宗教色の強い家庭でしたので、テレビを見ることは禁止されていました。

幼いころには、教会に通いましたが、今はキリスト教者ではありません。その当時は、牛の餌やり、ストーブのまき割りなどの家事をよく手伝いました。

### ■日本に興味を抱いたきっかけ

日本のことは最初ポケモンで知り、中学生の頃にはD・スランプの漫画を古本屋で買いましたが、小さな村の図書館には日本のことに触れた図書や資料はなく、日本のことを学ぶ機会はアニメ・漫画以外にはありませんでした。当時私が日本について学んだ知識は、1968年発行の百科事典によるものでとても粗末なものです。2009年に高等学校を卒業してエンポリア州立大学に進学しました。当初はビジネス専攻でしたが、どうしても興味を持って中国語を学び、外国語学習に興味を持つようになりました。その後、半年ほど中国で英語を教える機会があり、英語教育に携わりたいと考えようになりました。アメリカに戻り英

語教育を学びたかったのですが、通っていた大学には英語教育専攻がなく、英文学を専攻することになりました。学部生時に市川崑監督の「雪之丞変化」を観て、歌舞伎の女形にすっかり魅了されました。修士課程も英文学へ進みましたが、修士論文のテーマは「京鹿子娘道成寺」の文学的分析に基づく女形と歌舞伎をテーマにして修士論文を書きました。

修士課程における研究のおかげで日本に興味を持ちましたが、大学には日本語の授業がなかったため、独学で日本語を学び始めました。

### ■日本に来ることになった経緯

日本に最初に来るきっかけとなったのはJETプログラムに応募し採用されたことによります。JETプログラムとは、日本政府の英語教育交換プログラムです。採用された英語のネイティブスピーカーが日本で英語と出身国の文化を教えることが義務付けられたプログラムで、私は、2019年に沖縄の粟国島にある粟国小中学校で1年間英語を教えました。その間の粟国島での素晴らしい体験と親戚な多くの人々は忘れることができ

ず、栗国島は、私にとっての第二の故郷となりました。

その後、横浜に移住し、塾講師として1年間働きましたが、新型コロナウイルスの影響や家庭の事情等があつてアメリカに帰国することとなりました。日本に滞在中の体験から日本語の独学には限界があると思ひ、カンザス大学へ進学し、修士課程で2年間、東アジア研究の一環として日本語と日本文化について勉強しました。そこで米国での体験と日本での体験を比較してみても、自分はアメリカでの生活に馴染めない、日本にもう一度戻りたいという気持ちが強まったときに、2024年3月に上智大学への交換留学生として来日することができました。

## ■ジェンダーに対するアメリカと日本との相違

米国のエンポリア州立大学に在学中の2017年に、ジュディス・バトラーやシモーヌ・ド・ボーボワールなどの著作を読み漁り、フェミニズム文学の分析を通じてジェンダー問題への理解を深め、特に性差別的な行動の維持における家長制などの男性支配という伝統主義的な傾向に着目しました。私は、キリスト教原理主義という性別役割分担を厳しく強いる環境で育てられ、私の家族は、私を除き全員がトランプ支持者で、私は、それに反発して日本への定住を希望するようになりました。

今日のアメリカでは、特に若者の間でオンライン上での反動的なカウンターカルチャー（注）運動が展開されていて、性差別的な傾向が強くなっています。

アメリカでは、1970年前後の世界

的な学生運動や反体制運動の盛り上がり背景に男性支配のシステムを見直し、日常に潜む性差別を問題化し、社会的な抑圧全体を問い直した、かなり激しい女性解放運動が展開され、今日に至っています。

ところが、最近、今までの女性解放運動の展開への反動として、かつての男性優位のシステム、性差別分担を強化しようとする動きが激しくなってきました。特に若者の間で、オンライン上でのような反動的な動きが見られるという憂うべき現象が生じています。

日本の男女平等の進捗状況に関する調査によれば、教育と医療へのアクセスについては、ほぼ男女平等は達成されているが、経済と政治の分野での遅れが著しいと言われています。

しかし、私の感じとしては、日本のフェ



ミニズム運動は、アメリカに比べてゆっくりにあるが、着実に前進しているように思われます。日本では、いまだ年配者に性別役割意識が強く、それが男女差別の解消を遅らせている原因になっていますが、若い世代では、男女平等意識が強まっているように見えます。この日本とアメリカにおける相違は、両国間に存在する国民性の相違に原因があるように思えます。

アメリカの特徴としては、強い個人主義と厳しい競争意識があげられ、安定よりも変化を好む国民性があり、それがためにフェミニズム運動も激しくなる傾向があります。しかし、その反動としての最近の反フェミニズムの動きが、人工中絶への反対、少数民族優遇措置への反対、トランスジェンダー、LGBTQ+の否定などの動きに顕著に示されています。

これに反して日本人は、性格が穏やかで調和を好む傾向が強く、それが、日本のフェミニズム運動が緩やかで漸進的になっている原因ではないか、と考えています。

## ■小金井市に約1年間居住しての感想

私が日本にきた目的は、英語教育に携わりたいという願いの他に、日本のジェンダーの実態を知りたいと思ったことによります。上智大学に留学する際に、大学から居住場所を指定され、現在小金井市内にあるシェアハウスに多くの外国人とともに居住しています。小金井市は、緑が多く、豊かな自然に恵まれ、人々がとても親切かつ友好的で、幸運に思っています。

特に小金井公園は大好きな場所です、毎朝五時半ごろ公園を散歩していますが、そこで多くの親しい友人を持つことができました。私が、悩んでいた、困っていたりするときには、親切に相談に乗ってくれ、いろいろと貴重なアドバイスを授けてくれ、本当に助かりました。

幸いにも、1月より滋賀県近江八幡市のYMCAに正規の職員として採用され、近隣の高等学校で英語を教えることが決まり、日本永住の私の夢の第一歩を踏み出すことができそうです。そのうち生活が落ち着きましたら、小金井市の親しい友人の皆様にご報告し、機会がありましたら、皆さんと再会したいと思っています。

（注）既存の文化や体制を否定し、それに敵対する文化



## 取材を終えて

トランプが大統領に就任以降、急激な政策変更が行われつつあります。

多様性、公平性、包摂性の否定が行われ、ジェンダーについても前向きな姿勢が失われつつあることを懸念していますが、そのような動きが以前から米国社会の底辺において進みつつあったことが、グランゾウ氏のインタビューから伺えて米国社会の理解が深まりました。

（伊集院）

## 令和6年度 男女共同参画シンポジウム

### ジェンダー統計からみる男女共同参画の現状と課題

～小金井市民の男女平等観の問題点は？～

講師・杉橋 やよいさん（専修大学経済学部教授）

令和6年7月20日に男女共同参画シンポジウムを開催いたしました。今回は、「統計からみた男女共同参画の現状や小金井市民の男女平等意識」等について講演頂きましたので、その一部をご紹介します。

#### ◆小金井市民の男女平等意識の現状

令和2年3月発行の小金井市男女平等に関する市民意識調査では、「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という男女の役割分担意識について、国調査結果と比べ市民の方が男女平等であるべきという意識が強く、前回調査と比べても問題があるのではと捉える方が増えている。

次に審議会等の女性委員比率について、市の女性委員登用率は32・3％と比較的高い数値であるが、それでも前回調査と比べ女性委員を増やすべきと考える方が増えている。年別では、30代男性が女性委員を増やすことに一番消極的である一方、60代男性の約半数が積極的に女性を登用すべきという興味深い結果が出ている。

#### ◆統計からみる意思決定・生活時間

まず国会議員の女性割合を見ると、衆議院は9・7％と一割未満。参議院は27・4％と3割に近いが、人口の半分は女性であることを考慮すると女性の声が十分には届けられていない。一方、先進諸国では、韓国は18・6％、一番高いスウェーデンに至っては46％と5割近くもある。

次に経済分野においては、上位の役職ほど女性の割合が減り、係長職の24・1％に対し、

部長職では8・2％となってしまう。

行政分野も同様であり、国家公務員は、係長相当職の28％に対し指定相当職になると5％となる。

国会・経済・行政分野などの側面を見ても意思決定という点で女性がほとんど就いていない状況である。

次に生活時間について総務省の調査結果を見ると、労働時間については、男性は長時間労働の傾向にあり、特に30代後半から40代にかけてその傾向が顕著である。一方、女性は20代後半をピークに下がり、30代後半から40代前半が最も少ない。

次に末子が就学前の共働き世帯の仕事と家事育児時間の状況を見ると、男性は仕事時間が女性と比べ約2倍多い一方、家事育児時間は非常に短く女性と比べ約3分の1程となり、女性は仕事と家事育児の2重の負担を抱えていることがわかる。

小金井市民意識調査においても共働き世帯の男性が平日において家事に携わる時間は1時間未満の方が7割超だが、女性は1時間以上3時間未満が4割超、5時間未満を含めると7割超となり、国調査と同様の傾向がみられる。

#### ◆家事育児に対する思い込み

令和5年度に東京都が高校生及び小学生の保護者を対象に家事育児に対する性別による思い込みを調査したところ、高校生の時点で家事育児は女性の方が向いているという意識を持つ方が多く、特に男性に比べ女性の方がその傾向が強く、小学生の保護者も同様の傾向

がみられた。

#### ◆家事育児の国際比較

就学前の子を持つ夫婦の家事育児時間を国際的に比較すると、日本の女性が7時間超に対し、男性は1時間半にも満たない。さらに育児に絞ると女性は3時間45分に対し男性はわずか49分となり、国際的にも非常に短く、スウェーデンの男性は3時間超、育児も1時間超となっている。

#### ◆ジェンダーギャップ指数の日本の位置

2024年の日本のジェンダーギャップ指数は118位で、教育と健康分野は世界トップクラスであるのに対し、政治と経済分野において男女間の格差が大きく、順位を大きく下げ要因となっている。

#### ◆男女平等参画社会が目指すもの

男女平等参画は、女性だけの問題ではなく、女性と男性の関係における問題であり、地域や時代によっても異なる。持続可能な開発目標（SDGs）の5つ目の目標にもジェンダー平等が示されるほど、世界的な課題である。国内では、第5次男女共同参画基本計画において、政策決定過程への女性の参画、仕事と生活の調和、暴力の根絶、多様性の尊重などを目標に掲げている。

#### ◆地域で男女平等参画を進めるために

男女共同参画を進めるためには、男女間の格差・差別の実態を把握し、課題を明確にすることが重要であり、それに必要なのが統計

データ（ジェンダー統計）である。

統計データは、政策立案の基礎となるだけでなく、その政策の効果検証にも活用できる。統計データを活用することで証拠に基づいた政策立案（EBPM）も可能となる。

しかし、その中には、定義や概念などにアンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）が働いている可能性もあり、ジェンダーの視点から批判的に活用する必要もある。

地域で男女平等参画を進めるには、地域独自の課題を把握する必要がある。それには地域レベルでの統計データが必要であり、そして地域特性に応じた具体的計画も必要となる。岡山市のように市民と協働して統計資料を作るなどは、ニーズの把握や地域の特殊性を発見することにもつながるほか、男女平等参画の実現に向けた意識啓発にも有効である。なにより重要なのは、男女平等参画の視点を一人ひとりが意識しながら身に付けていくことである。その際は統計データを活用して欲しい。ただし、統計データにはアンコンシャスバイアスのような問題点もあり得るため、現実を正しく反映しているか、自身の見識や感覚を最大限活かして批判的に活用して欲しい。



## 小金井市男女共同参画 シンポジウム



## 第38回

# こがねいパレット



講師…香山 リカさん

(精神科医、むかわ町国民健康保険穂別診療所副所長、北洋大学客員教授)

令和6年11月2日(土)に、第38回こがねいパレットを開催いたしました。今回は、社会において、自分らしく行動できないときや、自分を表現できないときの生き方をテーマにお話し頂きました。ここではその一部をご紹介します。

## みんなとちがってもいいじゃない

### ●人と違う選択への不安

でも、ここには落とし穴があります。激しい自己否定ですよ。全然駄目だ、こんなのでは、とても恥ずかしくて、ちゃんと生きたとは言えないなどという、自分に対する非常に厳しい答えが、自分の中から湧いてきてしまうことがあります。

私だけがこのクラスの中で人と違って、これでは恥ずかしいな、駄目だなと、ここから自己否定につながっていくという、ここは注意したいですね。

それはなぜでしょう。評価の物差しが数字。それで、測られてしまう。そうすると、数字が多い人がすばらしい、偉い。そして、それよりも少ない私は劣っている、駄目だというふうに、知らない間に自分の中でも、自分に値段をつけて、値札をつけているわけですね。これもまた、私たちが今、現代の人たちが多く取りつかれている問題なのではないかと思えます。

今日、もう一つ皆さんにお教えしたいのは、自分へのステイグマというものの、負のレッテルですね、マイナスの烙印。

### ●みんなとちがってもいいじゃない

病名で一番有名なステイグマは、認知症という病名。以前は「痴呆」という単語自体が差別・偏見の言葉なので、現在はこれを「認知症」に変えました。あと、私がいる精神科の中では、「精神分裂病」という病気が「統合失調症」となりました。負のレッテルは、その人に対する誤解や偏見、あるいは差別の原因になるといいます。

もっと厄介なのは、自分で自分にそういうレッテルを貼っていませんかということ。どうせ私は何とかなんだからと、人に言われていないのに、自分で自分にレッテルを貼って思い込む。

しかし、私はこれがやりたいとか、私はこう生きたいというのを貰かないといけないというところもあると思います。しかし、自分がやりたいことをやったら必ず成功するとか、必ず最後の最後までこれでよかったと思えるとは限りません。でも、やらないうち後悔ほど、私たちにとってストレスになるものはないのではないのでしょうか。それよりは、やって後悔したほうがいいのではないかなと思います。

### ●みんなとちがってもいいじゃない

私が変わっているからだ、みんなと違うからだというふうに、自分ばかり責める時に立ち止まり、そんなふうに思わないといけない世の中の仕組みや空気のほうが、もしかしたら違うのではと疑ってみる。人から評価されたり、人から褒められたり、役に立ちましたよと言われるためだけに生まれたわけではない。それよりは、やっぱり自分でやりたいことを、生きたいように生きるこのほうが、私は大事ではないかと思えます。

やってみたけど違ったなと思ったら、取り返しがつくことだったら、またやり直せばいい。またもう一回、一緒にやってみようよと、励まし合いながらみんなで生きていければいいかなと思います。

(詳細については、『第38回こがねいパレット記録集』をご覧ください)

## こがねいパレットに参加して

日本人は和を大切にする一方で、自分を表現することや行動が苦手と言われます。自分らしさを大切に、迷ったら「やってみる」との先生のお話にはインパクトを感じました。人の目を意識しすぎる今の日本社会に向き合うヒントを頂けたと感じました。(塚田)

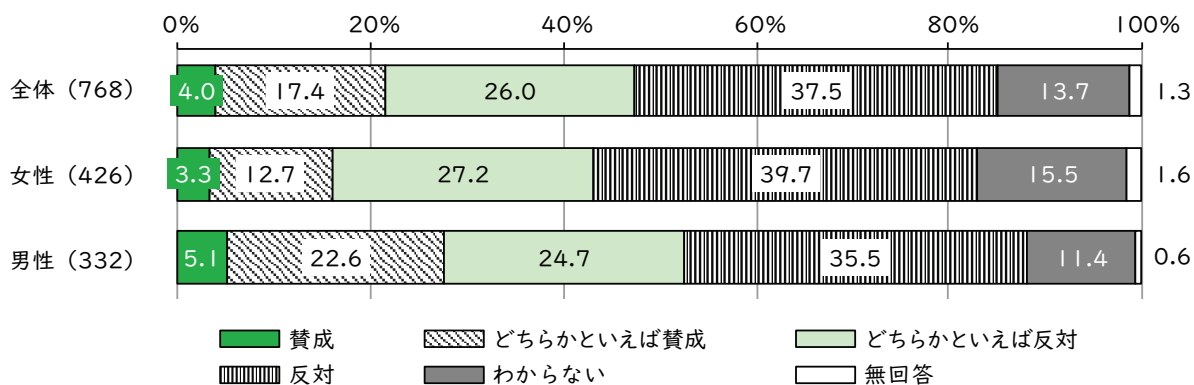


# 男女平等に関する市民意識調査 結果速報

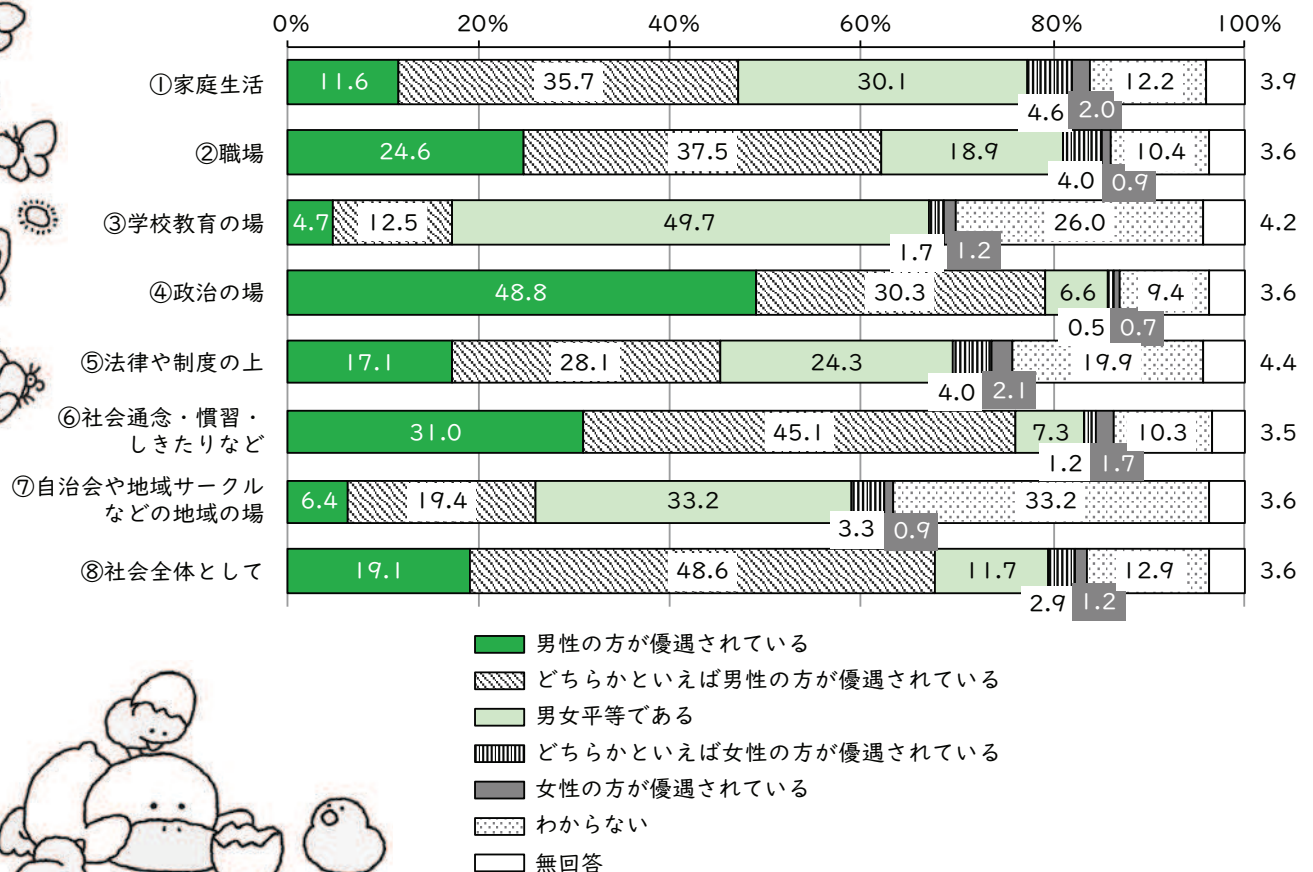
第6次男女共同参画行動計画の計画期間が令和7年度に満了となります。そこで市では、令和8年度以降の新たな計画策定に向け、男女平等に関する市民の考えを把握するため、令和6年10月に2,000人を対象（有効回答768人）に実施しました。

この度、調査結果がまとまりましたので一部を紹介します。（調査結果の詳細は市ホームページをご覧ください。）

## ① 家庭生活について、「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という意見についてどう思われますか。



## ② あなたは、次のような場で男女が平等になっていると思いますか。



# 「第6次男女共同参画行動計画」

## — 令和5年度 推進状況調査の報告について —

市では、男女共同参画社会の実現のため、令和3年3月に第6次男女共同参画行動計画を策定しました。

本計画は、計画期間を令和3年度～令和7年度とし、基本理念を「人権尊重とワーク・ライフ・バランスを軸とする男女共同参画の実現をめざして」と定めています。

この基本理念を具体的に推進していくため、基本目標Ⅰ「人権が尊重され、多様性を認め合う社会をつくる」、基本目標Ⅱ「ワーク・ライフ・バランスの実現した暮らしをめざす」、基本目標Ⅲ「男女共同参画を積極的に推進する」と、3つの基本目標を掲げています。

### ◆令和5年度推進状況調査結果

基本目標Ⅰでは95事業、基本目標Ⅱでは52事業、基本目標Ⅲでは19事業、合計166事業の実施内容等について調査しています。

#### ○具体的な取り組み

#### 〈審議会等女性の参画推進〉

男女共同参画社会の実現のためには、政策・方針決定の場への女性の参画が進むことが重要です。

また、審議会等の委員構成は、男女に偏りがないように配慮することが必要です。改選時には、できるだけ女性委員の登用を図るなど、様々な分野への女性の参画拡大に努めています。（下表）

#### 〈男女共同参画情報誌「かたらい」発行〉

男女共同参画施策の推進のため、市民編集委員制を導入し、情報誌「かたらい」を発行しています。

令和5年9月の第58号は「アンコンシャス・バイアス」無意識の思い込み」、令和6年3月の第59号では「そもそも『男女共同参画』ってなんだろう？」を特集しました。

今後も、男女共同参画に関する情報を発信し、意識啓発を図っていきます。

#### 〈こがねいパレット〉

男女共同参画社会実現のための啓発事業として、講演会等を市民実行委員が企画、運営しています。

令和5年11月12日に「地域で活かすこれからのわたし」をテーマに開催し、こがねいパレットに賛同する市民団体の紹介等を行いました。

「こがねいパレット」は、「いろんな色を持つ、いろんな人たちが自分の色を大切に、出会い、交流し、それぞれの色を認め合い、ときには、いくつかの色が混ざりあって、新しい色を織りなしながら、誰もが楽しく幸せに暮らせる豊かな社会を作り出そう」という願いが込められています。

### ◆男女平等推進審議会からの提言

令和6年1月に、市の附属機関である男女平等推進審議会から、本計画の推進等について提言をいただきました。

「提言書に記載されている意見（一部抜粋）」

▽令和5年度実績に対する評価及び意見について

・総評

・評価できる事業

・検討・改善を望む事業

▽（仮称）男女平等推進センターの設置に向けた具体策の検討

▽性の多様性への理解促進に向けた取組の強化

### ◆その他

報告書および提言書は、情報公開コーナー（市役所第二庁舎6階）、図書館本館、企画政策課男女共同参画室（市役所本庁舎2階）および市ホームページで閲覧できます。

審議会等女性の参画率

| 人数等                      | 小金井市<br>(令和6年4月1日現在) |        |       |       | 多摩26市<br>(令和6年4月1日現在) |        |       |       | 東京都<br>(令和5年4月1日現在) |        |       |       |
|--------------------------|----------------------|--------|-------|-------|-----------------------|--------|-------|-------|---------------------|--------|-------|-------|
|                          | 機関数                  | 委員等の総数 | 女性の人数 | 女性比率  | 機関数                   | 委員等の総数 | 女性の人数 | 女性比率  | 機関数                 | 委員等の総数 | 女性の人数 | 女性比率  |
| 審議会等                     |                      |        |       |       |                       |        |       |       |                     |        |       |       |
| 行政委員会<br>(教育委員会ほか)       | 6                    | 31     | 8     | 25.8% | 132                   | 778    | 149   | 19.2% | 9                   | 96     | 27    | 28.1% |
| 附属機関<br>(男女平等推進審議会ほか)    | 56                   | 667    | 216   | 32.4% | 984                   | 12,896 | 4,058 | 31.5% | 108                 | 1,341  | 627   | 46.8% |
| その他審議会等<br>(市民協働推進委員会ほか) | 28                   | 311    | 146   | 46.9% | 702                   | 10,745 | 4,232 | 39.4% | 126                 | 1,120  | 498   | 44.5% |
| 管理職の在職状況                 | —                    | 65     | 13    | 20.0% | —                     | 2,625  | 480   | 18.3% | —                   | 2,853  | 526   | 18.4% |

令和6年度 区市町村男女平等参画施策推進状況調査報告より

## 令和6年度 性の多様性への理解促進講座を開催しました。

令和7年2月8日(土)に令和6年度性の多様性への理解促進講座「LGBTQについて考える～当事者が抱える悩みと市民一人ひとりができること～」を開催しました。今年度の講師は、一般社団法人性的指向および性自認等により困難を抱えている当事者等に対する法整備のための全国連合会(略称:LGBT法連合会)事務局長代理の西山 朗さん、同事務局の青柳 江理さんを講師としてお招きしました。

講演当日は、LGBT、SOGI(性的指向・性自認の略)といったセクシュアリティに関する基礎知識の説明から、性的マイノリティの当事者が直面する困難事例のご紹介、性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律(以下、「理解増進法」と日本の法整備状況と国際的な位置づけ、市民一人ひとりが性的マイノリティの当事者とのように向き合うべきかなど、主に以下のポイントについてご講演いただきました。

- ①性的マイノリティが直面する問題は、単に性愛や恋愛に限ったものではなく、学齢期から就労期、高齢期に至るまでの人生のあらゆるステージに関わる問題であること
- ②日本人の約8%が性的マイノリティ当事者であるという調査結果もあり、当事者は身近に存在するということ
- ③性的マイノリティ当事者は社会の様々な場面で差別や偏見に苦しんでいること
- ④理解増進法は性的指向や性自認に関する理解を深めるうえで重要であるが、性的指向や性自認に基づく差別を禁止する法律の制定など、人権先進国と同等レベルの法整備がまだまだ必要な状況であること
- ⑤市民一人ひとりがアライ(性的マイノリティなどの社会的マイノリティを理解し支援しようとする考え方や、その

立場を表明している人のこと)として性的マイノリティと接し、多様な性のあり方を想定した上でコミュニケーションをすることが重要であること(例:日頃からジェンダーニュートラルな表現を使うように意識するなど)

- ⑥当事者からカミングアウトされた際は、その行為への労りと尊重を持ちつつ、共感するなど丁寧に話を聞く必要がある。そして本人に対しては、誰にどこまで話をしているのか(話をしてもよいのか)について相談・確認するなど、アウティング(本人の性のあり方を、同意なく第三者に暴露してしまうこと)については十分注意する必要があること



### 「かたらい」について読者の方から意見・感想等を募集しています。

氏名(ふりがな)、ペンネーム(記載がない場合はイニシャルとします)、連絡先を明記し、直接、郵送、FAX または E メールで企画政策課男女共同参画室へご提出ください。 ※一部抜粋して掲載させていただくことがあります。

〈提出先〉〒184-8504 住所不要 企画政策課男女共同参画室 FAX: 042-387-1224  
✉ s010303@koganei-shi.jp

### 編集後記

今号では3名の方にインタビューさせていただきました。

皆さん、それぞれ大事にしてきた想い、これからしていきたいこと、周りの人との関係づくりなどのお話を伺い、とても良い刺激を受けました。これからのかたらいでも、今まで大事にしていた想いと共に、多様な新しいチャレンジが生まれていくことでしょう。今号も無事に発行でき、ありがとうございました。

(秀澤 文子)

今回取材をした人たちに共通している特徴点は「人生における選択の自由及び多様な生き方を追求し、多くの人とともに夢の実現に取り組んでいるその姿にあります。」

これは、男女共同参画の精神にも共通するものであり、多くの読者の皆様これらの登場人物の生き方に共感されることを期待しております。

(伊集院 正)

今回の編集を通して、欧米とは違う、日本文化での男女共同参画があっても良いのではないかと感じました。そのため、いろいろな生き方があってよいと思える社会の実現が必要で、今後は、比べない生き方が大切だと思いました。

(塚田 悟)

取材にご協力いただきました皆さまに、この場をお借りして御礼申し上げます。

(男女共同参画室)

古紙を配合しています。

「かたらい」は、公募による市民編集委員が、企画・取材・執筆を行っています。